

# 大阪大学大学院医学系研究科漢方医学寄附講座活動報告

職員	
准教授	西田 慎二
助教	井上 隆弥
	岸田 友紀
	有光 潤介
研究員	呉 非
事務	大橋 真理

## 沿革

大阪大学大学院医学系研究科は、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」の一環として、21世紀を担う医療のスペシャリストの育成と世界をリードする研究の推進を目指している。すでに最先端の研究として遺伝子治療、再生医療をはじめ多くの実績を積み上げ、今後も未来医療の発展に大きな可能性が期待されているところである。

しかしながら一方で高齢化社会が進行し、健康志向、Quality of Life 改善が望まれる中、西洋医学を基盤とする先端医療のみでは対応不可能な病態の増加、症状の多様化がみられる。西洋医学に対し、東洋医学は別の観点から疾患及び患者に対応する学問として発展してきている。東洋医学は患者の症状を常に多角的に捉え、総合的な所見を重要視し、個々の対応を行い治療に貢献してきた。現代の医薬は、単一の症状に効果が出るように開発されてきたのに対し、漢方薬は多様な症状に効果を与えることを想定して開発されている。近年、遺伝子医学の分野で言われている「個の医学」や生活習慣病の分野で注目されている「予防医学」の概念などは、最先端の西洋医学の立場から、あらためて東洋医学にその考え方を学ぼうとする動きが広がりつつある。東洋医学は中国や東南アジア特有の学問であり、「漢方医学」は我が国が独自に発展させてきたものである。

本講座を開設することにより、これらの歴史的に継承されてきた医学を新たに最先端の解析技術を駆使して有効性を検証し、さらに発展させ、新しい「統合医療」を目指すことが可能になると考えられる。このような背景から、平成17年10月に漢方医学寄附講座が開設された。

## 診療活動

診療活動は平成17年12月より開始された。当初は週に2日のみであったが、平成18年4月より、毎日外来を行うことが可能になった。1診体制で、

場所は総合診療部の午後診枠を使用、初診・再診ともに完全予約制である。院外処方であるが、日本で保険適応のあるほぼ全ての種類のエキス製剤と生薬製剤が処方可能である。外来部門のみであるが、他科入院中の患者に対する診察は可能である。なお、鍼灸治療は行っていない。

1日の患者数は初診が1~2名、再診が10~20名程度である。大学病院の予約制外来という特殊事情もあり、慢性疾患で病歴・愁訴の複雑な患者が多い。疾患群としては多い順に慢性の疼痛、身体表現性障害、悪性腫瘍治療後の後遺症や補助療法、気分障害・不安障害などの精神科疾患、自己免疫疾患、産婦人科疾患、皮膚科疾患、疲労を主訴とする者、消化器疾患などである。

患者数は増加傾向にあり、1診体制ではなかなか困難な状況になりつつある。

## 教育活動

### 1) 学部学生に対して

3 回生対象：薬理学の中で2コマの講義を行っている。主に生薬薬理学として解説し、漢方医学の理論的背景はあまり触れない。

4 回生対象：臨床医学特論の中で7コマの講義を行う。教室員全員および学外ゲストスピーカーによる講義を行っている。進級のために必要な授業の1つであり、評価は出席とレポートによって行っている。出席率は非常に高い。

6 回生対象：総合診療部の臨床実習中に、希望者に対して外来実習を行っている。

### 2) 大学院学生に対して

大学院修士課程に対して、漢方医学の授業を1コマ行っている。

### 3) 大学クラブ活動に対して

医学部和漢薬研究会の学生に対し、顧問として日常勉強会また学園祭での適宜指導を行っている。医学部のクラブではあるが、薬学部や社会学系の学生も参加しており、アクティブに活動を行っている。

4) 学内教育・啓蒙活動 (faculty developmentの一環として)

大阪大学漢方研究会(クローズドメンバー)、漢方古典研究会(クローズドメンバー)、大阪大学基礎漢方研究会(オープンメンバー)を、月に1回開催している。臨床各科や薬剤部など、幅広く参加がみられる。なお、平成18年3月26日より西田慎二が指導医、ならびに当該施設が日本東洋医

学会研修施設に認定されており、医局員ほか数名が研修中である。

#### 5) 他学に対して

西田は関西医科大学非常勤講師として、同大学の授業を行っている。

#### 研究活動

西田は心身症疾患についての臨床研究を行っている。井上は疼痛疾患に対して基礎および臨床研究を行っている。岸田は運動器・整形外科領域についての基礎および臨床研究を行っており、成果はすでに英文原著として報告している。また、平成19年度科学研究費補助金(若手B)において、“老年疾患における漢方薬の科学的効果判定”が採択された。有光は膠原病疾患についての基礎及び臨床研究を行っている。また教室全体として、漢方の古典的診断手法の定量・定性化に向けての研究を進めている。

#### 学外講演、学会発表(2007年のみ)

##### A) 講演

- 1) 西田慎二：漢方医学の基礎知識-病院薬剤師のかたへ-その2、ファーマシューティカル・ケア研究会、教育講演、大阪、2007.1
- 2) 岸田友紀：やさしい漢方勉強会、読売新聞社、教育講演、大阪、2007.3
- 3) 西田慎二：不定愁訴に対する漢方治療、南大阪漢方研究会、教育講演、堺、2007.7
- 4) 西田慎二：心療内科領域の漢方治療、第21回医学生のための漢方医学セミナー、教育講演、四日市、2007.8

##### B) 学会発表

- 1) 西田慎二、岸田友紀、井上隆弥：心療内科領域における抑肝散のさまざまな使用方法、第43回日本東洋心身医学研究会、ワークショップ、東京、2007.2
- 2) 西田慎二、岸田友紀、井上隆弥：大阪大学?属病院漢方医学外来の初診患者の特徴、第58回日本東洋医学会学術総会、一般演題、広島、2007.6
- 3) 萩原圭祐、有光潤介、西田慎二：慢性の難治性下痢を伴った肺高血圧症合併の皮膚筋炎患者にボセンタンと附子理中湯が著効した一例、第58回日本東洋医学会学術総会、一般演題、広島、2007.6
- 4) 井上隆弥、岸田友紀、有光潤介、西田慎二：八味地黄丸が有効であった肢端紅痛症の1例、第20回日本疼痛漢方研究会、一般演題、広島、2007.7

- 5) 西田慎二：うつ病・うつ状態の洋漢統合医療、日本東洋医学会奈良県部会、教育講演、奈良、2007.10
- 6) 有光潤介、萩原圭祐、井上隆弥、岸田友紀、西田慎二：リウマチ性多発筋痛症に対して漢方治療が有効であった2例、日本東洋医学会関西支部例会、京都、2007.10
- 7) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、西田慎二：“桃核承気湯”により、長年の腰痛が劇的に軽快した38歳女性、日本東洋医学会関西支部例会、京都、2007.10
- 8) 中西美保、蔭山充、中井恭子、志馬千佳、福井弥己郎、西田慎二：苓姜朮甘湯が著効したFailed back surgery syndrome(腰椎術後腰痛)の1例、日本東洋医学会関西支部例会、京都、2007.10
- 9) 西田慎二：歯科・口腔疾患の東洋心身医学的治療、第25回日本歯科東洋医学会総会、教育講演、大阪、2007.11
- 10) 西田慎二：気の病変としての心身症の病態・治療、日本東洋医学会和歌山県部会、教育講演、和歌山、2007.12

#### 論文発表(2007年のみ)

##### A) 原著

- 1) Kishida Y, Yoshikawa H, Myoui A: Parthenolide, a natural inhibitor of Nuclear Factor-kappaB, inhibits lung colonization of murine osteosarcoma cells. Clin Cancer Res.:13:59-67,2007
- 2) Kishida Y, Miki H, Nishii T, Inoue T, Nishida S, Yoshikawa H, Sugano N: Therapeutic effects of Saireito (TJ-114), a traditional Japanese herbal medicine, on postoperative edema and inflammation after total hip arthroplasty. Phytomedicine, 14: 581-586, 2007
- 3) Sumitani M, Rossetti Y, Shibata M, Matsuda Y, Sakaue G, Inoue T, Mashimo T, Miyauchi S?: Prism adaptation to optical deviation alleviates pathological pain. Neurology, 68:128-133, 2007
- 4) Okamoto Y, Tsuneto S, Matsuda Y, Inoue T, Tanimukai H, Tazumi K, Ono Y, Kurokawa N, Uejima E. :A retrospective chart review of the antiemetic effectiveness of risperidone in refractory opioid-induced nausea and vomiting in advanced cancer patients. J Pain Sym Manage,34:217-222,2007
- 5) Sumitani M, Shibata M, Iwakura T, Matsuda Y, Sakaue G, Inoue T, Mashimo T, Miyauchi S.: Pathological pain distorts visuospatial perception. Neurology, 68:152-154,2007

- 6) Suzuki T, Amata M, Sakaue G, Nishimura S, Inoue T, Shibata M, Mashimo T.?: Experimental neuropathy in mice is associated with delayed behavioral changes related to anxiety and depression. *Anesth Analg*, ;104:1570-7, 2007

#### B) 総説

- 1) 西田慎二: 精神構造-五神の働きと治療への応用. *中医臨床*, 28, 7-12, 2007

#### C) 症例報告

- 1) 西田慎二、岸田友紀、井上隆弥、吉川秀樹: 漢方薬によって改善した遷延性・難治性過敏性腸症候群の1例. *漢方の臨床*, 54, 281-285, 2007
- 2) 西田慎二、小山敦子、松岡弘道、平野智子、陣内里佳子、朽原京子、岩上芳: ウェルシュ菌を疑われる起炎菌により、出血性壊死性腸炎にて死亡した神経性食思不振症患者の剖検例: *心身医学*, 47: 875-881, 2007
- 3) 中西美保、蔭山充、中井恭子、西田慎二: "大柴胡湯" から "大建中湯" の転方投与 (先急後緩) により、原因不明の腹痛が消失した 24 歳の女性. *漢方研究*, 426: 176-177, 2007
- 4) 中井恭子、蔭山充、中西美保、志馬千佳、西田慎二: あきらかに 虚証 を示す多愁訴の 50 歳女性が、"桃核承気湯" で著効した一例. *漢方研究*, 429: 272-273, 2007

#### その他の活動 (一般向け雑誌・HP 取材など)

- 1) 「大学病院の漢方外来探訪」週刊朝日増刊・漢方 2007 掲載、2007.2
- 2) 「大橋マキの漢方徹底取材」漢方 View (インターネット) 2007.7